

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300396		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム彩りの泉 (Aユニット)		
所在地	愛知県名古屋市区北如意3丁目46番地		
自己評価作成日	令和2年8月19日	評価結果市町村受理日	令和2年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.katgokenisaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?act=for_kouin_you_detail_022_kani=true&ligvosvcId=2390300396-
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階
訪問調査日	令和2年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新規開設し間もないが毎日の日課下肢運動に力を入れている。晴れの日には散歩に出かけ公園等にも立ち寄るなどを行っている。雨天時においてはホールや廊下を歩く等を行い下肢筋力低下防止に努めている。コロナウイルスの兼ね合いより外出レクリエーション等には足を運ぶ事ができないものの、外食気分を味わう為にもお弁当の注文やお菓子の注文を行い非日常生活にて楽しむようにしている。定期的手作りおやつ(羊羹・五平餅)作り等も実施。今後も上記の内容は途切れる事のないように実施をしていきたいと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年4月に開設して6か月を経た事業所は、洋館を思わせるような2階建3ユニットのモダンな建物である。豊山町や春日井市に程近く、周りには田畑が広がりが民家や介護施設がのどかな風情が感じられる環境にある。コロナ感染症に伴う緊急事態宣言の中で開設し、万全の予防対策を講じながら「すまうひとみなさまにいろどりを」基に、一人ひとりのペースに合わせた暮らしができるように、職員は一人ひとりの希望を尊重しその人らしく過ごせることを目標にして支援に努めている。受診は、内科をはじめ専門医の往診もあり治療に対応しており、24時間連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努め、家族からの安心を得ている。食事は、職員が季節の食材を取り入れた献立や入居者の希望や郷土を生かした家庭料理を毎食手作りし、職員も食卓を囲んでいる。ピンク、黄色、緑とユニットごとに基調とした落ち着いた色使いの椅子やカーテン、壁などの共有空間で、会話をしながら食事の手伝いをしたり洗濯物をたたんだり、テレビや新聞を見たりして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階事務所に理念を掲示する事にて休憩時等にも視野に入るようにし、ケア時に良い支援ができるように努めている	会社の運営方針の他に、オープニングスタッフで彩の泉にふさわしい理念を作り事務所に掲示している。ゆったりとした生活空間の中で、入居者それぞれの想いをもって彩のある暮らしができるよう、職員は一人ひとりの希望を尊重しその人らしく過ごせることを目標にし支援に努めている。毎日の申し送り時や会議、研修等で再確認し行動の指針として日々のケアを振り返りながら共有と実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近隣の散歩や公園等にて挨拶を積極的に実施するように努めている。駐車場入口に自販機を設置し地域の人にも購入しやすいようにしている。	市の広報で行事などの情報を得ている。入居者は日々の散歩であいさつを交わしたり、公園に出かけるなど普段から地域の方との触れ合いを大切にしている。新型コロナの影響で、町内会の行事の参加や飲食店での食事、ボランティアの受け入れなどは自粛している。駐車場入り口には自販機を設置して地域の輪づくりの場を提供している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時は職員より挨拶を行い、入居者様にも挨拶を促すように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、地域関係者や施設職員、家族にて実施としているが、開設当初よりコロナウイルスの影響にて未開催。書面実施においては初めから書面となるのは失礼にあたる為、今後の開催については計画予定となっている。	4月に開設し、入居者家族や民生委員、町内会長、連合会長に運営推進会議について挨拶を兼ね話をしている。運営推進会議の年間計画表を作成し年6回実施する予定としているが、初回より新型コロナによる緊急事態宣言により開催が困難となっている。状況が落ち着いたら施設見学と運営推進会議を開催する予定にしている。	新型コロナの影響で開催が困難であり、地域に情報を発信することも難しい現状となっている。運営推進会議の方法や必要性を職員に啓発できるチャンスとして捉え、施設内のメンバーで開催するなどして、今後の運営推進会議やサービスの向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か情報や研修の案内等はFAXや郵送にて案内が送られてくる。インターネット上に事業者向けの情報発信もある為、サイトより情報収集も実施。	新型コロナウイルスの影響により、現状では市の情報や研修の案内などは、FAXや郵便により送られてくる。必要に応じて事業所の実情やケアサービスの取り組みなどは連絡し合っている。また、オンラインの研修や介護ネットを利用して得た情報をケアや運営に役立てている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口や非常階段は施錠となっているも、中庭の鍵などは開いており、出ることは可能。3ヶ月おきに身体拘束においての研修会を実施している。	委員会を立ち上げ、3か月ごとに身体拘束について勉強会を実施している。職員は動画研修などで得た情報や課題を会議のテーマとして話し合い理解を深め、拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックは常に課題意識を持ちケアするようにしている。エレベーターや階段などは、安全に利用できるよう工夫をして自由な生活空間を提供し、束縛感のない生活が送れるよう配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催すると共に、全職員にて身体に内出血や痣がないか等を観察し、内出血等がある際には管理者に報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については管理者や社員の数名は知識として知っているも、全従業員は知識習得ができていない。成年後見人に関しても該当者がいない為知識を習得していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明を行い、不明な事等には答えている。契約後にも何かあれば適時相談に応じるとはお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノートやケース記録を活用しスタッフ間での情報共有しケアに反映させるようにしている。	入居者からは日々の関わりの中から思いを聞いている。意見や要望などは、申し送りノート等に記録してカンファレンスで検討し情報を共有して運営に反映させている。新型コロナの影響で行事等自粛しているため、家族からは着替え等の持参時や9月下旬に再開した面会の折に意見や要望を聞き、ケアや業務改善に役立てている。「彩の泉便り」を毎月発行し、入居者の日ごろの様子を記載して家族に安心を届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや職員との面談時に出た意見は内容に応じて上長に報告を行い働きやすい環境作りに努めている。	日常の業務の中や申し送り時、またカンファレンスで職員から提案や要望を聞きより良いケアに繋げるよう努めている。内容によってはユニットリーダーを通して話し合い、職員がやりがいや向上心が持てるような職場環境作りをしている。管理者とは面談の他にも随時話し合える機会を多く持ち、常に職員の提案や意見、悩みなどを聞いて業務や職場環境などの整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフ一人一人の勤務状況、勤務形態の把握に努め相談しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設時研修においてサービス接遇やアンガーマネジメントコントロール研修を実施。他の外部研修にはコロナウイルス流行の為参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内管理者同士の交流を行い他施設との情報交換を行い、ケア等に反映させるように努めている。また必要に応じてスタッフ間の応援にて交流を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントにて本人や家族様に要望や困っている事等をお聞きし、スタッフ間で話し合いを行い、可能な限り安心した生活がおくれるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等にご家族様との会話時間(様子報告)を可能な限り行うようにして、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、サービス提供時にはご家族様の希望をお伺いし、必要とされているサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とスタッフが協力し共同生活を行い、入居者様一人一人にお手伝いをして頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションや毎月発行施設新聞を通じて施設での様子を写真、コメントにて伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にお見えの際には居室でお話ができるように対応している(テーブル、椅子をお貸す)。ご友人との面会に関してはご家族様同伴であれば可とはしているも現在は家族や兄弟のみ。	アセスメントシートで生活歴や馴染みの人、場所などを把握し、今までの生活が再現できる支援を目指している。新型コロナの影響で現在は居室での面会は制限しているが、居室でゆっくり過ごせるような配慮もしている。友人の手紙が届いたり、家族の協力を得て自宅の仏壇にお供えを届けに出掛けたりして、馴染みの人や場所の関係が途切れないような支援に取り組んでいる。また趣味の塗り絵や縫物、日常の買い物や家事、男性の髭剃りなど今まで培ってきた経験を日常に生かすようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴や出身地や趣味を把握し会話の間に入ったりするようにしている、また席並び等も上記内容なども考慮し孤立しないようには努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在サービス終了者の該当がないが、サービス終了時にはまた何かあれば相談して下さい等の声をかけるようにしていくと共に、お手紙等も使用していき関係が切れないように努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活より本人の意向や希望、相談事項を聞いている。内容に関しては申し送りノートを活用しスタッフ間で共有を行っている。	日常生活の中で入居者同士のさりげない会話や表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったことを申し送りノートに記載して、職員間で話し合い共有してケアにつなげている。思いの表出の少ない方は、身振りやうなづき、表情から思いを把握したり家族から話を聞いたりして本人本位に検討をして、一人ひとりの思いに寄り添う支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族様に生活歴等をお伺いし職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に1日の様子を介護記録に入力を行い、一人一人の心身の状態やできる内容の把握に努めている、また有する力を発揮できる内容はカンファレンスや申し送りノートも活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング(3ヶ月)・カンファレンス(毎月)を行い、内容をケアプランに反映。家族様よりも要望や改善事項等をお伺いし、その内容をもとにケアプランを作成しご家族様、入居者様に説明している。	担当職員が入居者の日々の様子や意向を介護記録に記載し記録を毎日確認しながらケアをしている。毎月のカンファレンスでケアの重点目標を話し合い、情報を共有しながら実践に取り組んでいる。3か月ごとに日常生活について、モニタリングを行い、6か月ごとに介護計画の見直しをしている。医師や看護師など関係者の意見や家族の意向等踏まえながら、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合場合は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、申し送りノートに記入を行い情報共有に努めている。その後カンファレンスを行い介護計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズや課題に合わせた機能を取り入れADL低下防止に努め安心して生活していけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルスの影響にてスタッフのみとなっているが、近隣のスーパーへの買い物実施、施設近隣の散歩活動を行い地域住民と挨拶を行い交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設嘱託医か今までのかかりつけ医を選択して頂いている。現在入居中の方は全員が嘱託医となっている。入居者様の体調変化時等は連絡を行い適切な対応をさせて頂いている。	入居時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いているが、提携医に変更される方が多い。内科は月2回の往診が受けられる。専門医の往診もあり治療に対応している。歯科は往診と口腔ケアの契約をしているが、新型コロナの影響で今は、職員が付き添いで通院している。受診結果はケア記録や申し送りノートに記載して情報を共有している。薬は自社薬剤師が管理している。訪問看護師と24時間体制で連絡を取り健康管理に努めている。身体状況に変化があった時や緊急時は、主治医や提携医、協力医療機関による連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か体調変化や入居者様の相談等は24時間オンコール体制の訪問看護ステーションと契約している為、相談を行っている。必要に応じ先生手配も行って下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入居者様が安心して治療を受けられるように入院時には情報提供を実施。また入院時には往診医に連絡を行い入院先へ今までの治療経過等を連絡して頂くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での生活時は適切な対応が出来るようにご本人様の意向、ご家族様の意見を大事にし医療関係者と相談しながら、スタッフとも連携を行い支援に努めていきたい。	入居時に、重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにして家族の同意を得ている。重度化する可能性がある場合や状況が変化した場合は、その都度入居者や家族に希望を確認し医師や看護師、その他関係機関と話し合いながら、計画の見直しを行っている。まだ見取りの経験はないが、入居者にとって最善の援助ができるように努め、可能な限り希望に添うよう支援をしている。家族も共に看取る体制も整える準備がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフには急変時の対応はフローチャートや訪問看護のオンコールに連絡するように周知をしている。初動対応の救急講習についてはコロナウイルスもあり、参加ができていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者様、スタッフ合同にて避難訓練を実施。訓練終了後、問題点や課題点を話し合いを行い、次回の訓練に活かせるに努めている。地域協力については不十分。	新型コロナの影響と開設して間もないため全員での避難訓練は未実施だが、1階入居者と職員で避難誘導時の動線の確認を行い、訓練終了後に問題点や課題を話し合って改善している。今後の状況を確認しながら様々な災害を想定した避難訓練を予定している。備蓄品は業者が委託管理をし、水や食料など職員の物資も含め3日分が各フロアに用意されている。玄関には、緊急時の非常持ち出しリュックとAEDが設置されている。	最新の防災機器を備えての開所ではあるが、様々な災害を想定した訓練計画を立て、どの職員もいざという時に冷静沈着な行動が取れるように訓練を実施したり、消防署の立会の下で避難誘導訓練を行い専門的立場からのアドバイスを受け職員間で周知し、災害時の入居者の安全に繋げることを願いたい。また、地域の防災状況を把握した上で事業所の役割を模索し、協力関係に進展させることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の行動や言動や自尊心を傷つけないような対応を心掛けている。職員によっては大きな声で排泄の事を問いかける職員もいる為、カンファレンスにて注意を行うようにしている	一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し個々の生活スタイルを守り、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮している。日々のケアの中で、馴れ馴れしさや特に雑になりがちな言葉使い、声のトーンなどお互いチェックし合っている。会議で常に確認して思いやりと笑顔あふれる暖かい環境作りを大切に支援に努めている。開設時には、接遇やアンガーマネジメントコントロールの研修をして職員のレベル統一に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレや入浴誘導においても必ずご本人様に声かけをしてから誘導を実施。拒否が強い場合には無理に誘導を行わないようにしている。レクリエーションは入居者様が参加したいと思えるように声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、どのように過ごしたいかを聞きながら支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣等はご本人様に衣服を選んで頂くようにしている。自己決定ができない入居者様の場合はスタッフにて選択を行うが前日と被らないように配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあるが入居者様のリクエストメニューを導入している、また季節に応じたメニューにも変更を実施。お手伝いが可能な入居者様には調理補助や食器拭き等も手伝っていただいている。	職員が季節の食材を取り入れた献立で郷土を生かした家庭料理を毎食手作りしている。誕生会や行事などは、入居者の希望のメニューに変更したり、テイクアウトや弁当の注文をしたりして外食の雰囲気を楽しんでいる。調理や準備、後片付けはその人の得意分野を生かし、職員と一緒にやっている。職員も同じテーブルを囲み、会話を通し食への関心を引き出すような対応や見守りを行っている。手作りおやつやフレンチトーストやプリン、五平餅作りなども楽しみの一つになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の水分量・食事摂取量を確認し記録を実施。量だけに捕らわれずに対応し必要に応じ食事形態や水分形態変更を行い対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア・モーニングケアを実施している。可能な限り自己にて実施して頂くも必要に応じ介助を実施。訪問歯科診療についてはコロナウイルスが落ち着き次第導入予定(医療機関とは契約済み)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄ペースを理解すると共に、その人に合わせた声掛け、誘導を実施しトイレにて排泄できるようにアプローチしている。	個々の排泄ペースに添って一人ひとりに寄り添い、さりげない声かけやタイミングを工夫してその人に合ったトイレ誘導に努めている。日中は自力での排泄を目指している。夜間でも、尿意を感じ自分でトイレに行くことを大切に、丁寧な声掛けや見守りの支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水分・牛乳を提供し自然排便が出来るように促している。1日の水分摂取量も把握し水分摂取量が少ない入居者様には水分摂取量日頃より促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回を目途に入浴を実施。機械浴・個浴日と曜日は定めているも本人の体調等に配慮して対応している。個浴、機械浴関係なく拒否時は翌日にアプローチもしている。	入浴は週3回を目安に行っているが、希望があればいつでも入浴できる環境を整えている。個浴と機械浴が設備され体調に合わせて入浴できる。お湯は常に足し湯をし清潔に保たれている。入浴後は各自お気に入りの化粧水や乳液などで肌のお手入れをしている。冬季は脱衣場の暖房機や浴室暖房を利用してヒートショックに配慮している。入浴を拒む方には、声かけを工夫してタイミングを見計らい、気分転換を図って気持ちよく入浴できるように支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分に合わせて気兼ねなく、休息できるような声掛けを行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬がわかるように常に最新に薬情をフロアにファイリングしてある。服薬時は名前・日付を2人で確認を行い配薬、服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等でできる事を役割分担して参加して頂いている。現在コロナウイルスの影響にて外出レク等ができない為手作りおやつやお弁当(お寿司)等を注文したりし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外食レク・喫茶レク・施設買い物も設けているも現在コロナウイルスの為外出は出来ないが毎日の散歩活動は日課として行っている。	新型コロナの影響で外出にも制限がある中、散歩に出る時間や気温などを考慮して毎日散歩するように努力している。少しでも外気に触れる機会を大切にしながら四季を感じられる工夫をしている。コロナが収束した折には入居者一人ひとりが希望する喫茶店や外食などの外出支援や家族の協力を得て普段行けない所へも出かけられるよう準備をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金(お小遣い)は施設にてお預かりさせて頂いている。現在は何か購入希望等あれば職員が代行にて買い物を実施。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様了解のもと、本人と電話にてお話をさせていただいている。ご友人とのお手紙等は自宅に届いて、施設に持参する事あり、その際はご本人様にお渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットにおいて色合いや壁紙を変える等をして自己のユニットが認識できる工夫をしている。またフロアには季節に応じた手作りカレンダー等を掲示している。	彩の泉シンボルであるクローバーのピンク、黄色、緑を各ユニットカラーとして落ち着いた雰囲気での共用空間作りをしている。食堂と居間がワンフロアで明るく風通しが良く開放感がある。リビングの壁には、四季折々の手作りカレンダーを飾りシンプルで清潔感のある生活空間となっている。キッチンからは入居者の動きや気配がよく見渡せ、調理を行いながら入居者を見守ることができる配置となっている。リビングでは、ソファでテレビを見たり食堂の椅子に座っておしゃべりや家事の手伝いなどをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りや介助が必要な方がお見えになる為、座席を決めている入居者様もいるが、自由に座って頂くようにはしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドに関しては法人にて介護ベッドを用意しているが家具については今まで使っていたものを持ち込んでいただいている。配置に関しても自由に決めていただいている。	居室には、使い慣れた筆筒や好みの椅子、テレビ、仏壇、携帯電話など、自宅で使用していたものを持ち込み安心して暮らすスペースや環境づくりをしている。また、愛着のある手作り作品や写真、花などを飾って心地よく過ごせる工夫をしている。清掃を自身で行う方もおり自立した生活が送れるような支援をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に合わせ、できる事を見つけ役割を持って生活できるように支援をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390300396		
法人名	株式会社イズミ		
事業所名	グループホーム彩りの泉 (Cユニット)		
所在地	愛知県名古屋市中区如意3丁目46番地		
自己評価作成日	令和2年8月19日	評価結果市町村受理日	令和2年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?action_kouin_detail_022_kani=true&lievosvoCd=2390300396-
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	令和2年9月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新規開設し間もないが毎日の日課下肢運動に力を入れている。晴れの日には散歩に出かけ公園等にも立ち寄るなどを行っている。雨天時においてはホールや廊下を歩く等を行い下肢筋力低下防止に努めている。コロナウイルスの兼ね合いより外出レクリエーション等には足を運ぶ事ができないものの、外食気分を味わう為にもお弁当の注文やお菓子の注文を行い非日常生活にて楽しむようにしている。定期的手作りおやつ(羊羹・五平餅)作り等も実施。今後も上記の内容は途切れる事のないように実施をしていきたいと思う。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年4月に開設して6か月を経た事業所は、洋館を思わせるような2階建3ユニットのモダンな建物である。豊山町や春日井市に程近く、周りには田畑が広がり民家や介護施設がのどかな風情が感じられる環境にある。コロナ感染症に伴う緊急事態宣言の中で開設し、万全の予防対策を講じながら「すまうひとみなさまにいろどりを」基に、一人ひとりのペースに合わせた暮らしができるように、職員は一人ひとりの希望を尊重しその人らしく過ごせることを目標にして支援に努めている。受診は、内科をはじめ専門医の往診もあり治療に対応しており、24時間連携体制のもと、速やかで適切な医療が受けられるよう努め、家族からの安心を得ている。食事は、職員が季節の食材を取り入れた献立や入居者の希望や郷土を生かした家庭料理を毎食手作りし、職員も食卓を囲んでいる。ピンク、黄色、緑とユニットごとに基調とした落ち着いた色使いの椅子やカーテン、壁などの共有空間で、会話をしながら食事の手伝いをしたり洗濯物をたたんだり、テレビや新聞を見たりして穏やかに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各階事務所に理念を掲示する事にて休憩時等にも視野に入るようにし、ケア時に良い支援ができるように努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の散歩や公園等にて挨拶を積極的に実施するように努めている、駐車場入口に自販機を設置し地域の人にも購入しやすいようにしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩時は職員より挨拶を行い、入居者様にも挨拶を促すように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度、地域関係者や施設職員、家族にて実施としているが、開設当初よりコロナウイルスの影響にて未開催。書面実施においては初めから書面となるのは失礼にあたる為、今後の開催については計画予定となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何か情報や研修の案内等はFAXや郵送にて案内が送られてくる。インターネット上に事業者向けの情報発信もある為、サイトより情報収集も実施。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	非常階段は施錠となっているも、ベランダの鍵などは開いており、出ることは可能。3ヶ月おきに身体拘束における研修会を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会を開催すると共に、全職員にて身体に内出血や痣がないかを観察し、内出血等がある際には管理者に報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護については管理者や社員の数名は知識として知っているも、全従業員は知識習得ができていない。成年後見人についても該当者がいない為知識を習得していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に基づき説明を行い、不明な事等には答えている。契約後にも何かあれば適時相談に応じるとはお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	申し送りノートやケース記録を活用しスタッフ間での情報共有しケアに反映させるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや職員との面談時に出た意見は内容に応じて上長に報告を行い働きやすい環境作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者はスタッフ一人一人の勤務状況、勤務形態の把握に努め相談しやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	開設時研修においてサービス接遇やアンガーマネジメントコントロール研修を実施。他の外部研修にはコロナウイルス流行の為参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内管理者同士の交流を行い他施設との情報交換を行い、ケア等に反映させるように努めている。また必要に応じてスタッフ間の応援にて交流を図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメントにて本人や家族様に要望や困っている事等をお聞きし、スタッフ間で話し合いを行い、可能な限り安心した生活がおくれるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時等にご家族様との会話時間(様子報告)を可能な限り行うようにして、信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、サービス提供時にはご家族様の希望をお伺いし、必要とされているサービス提供を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様とスタッフが協力し共同生活を行い、入居者様一人一人にお手伝いをして頂くようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションや毎月発行施設新聞を通じて施設での様子を写真、コメントにて伝えるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会にお見えの際には居室でお話ができるように対応している(テーブル、椅子をお貸す)。ご友人との面会に関してはご家族様同伴であれば可とはしているも現在は家族や兄弟のみ。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活歴や出身地や趣味を把握し会話の間に入ったりにするようにしている、また席並び等も上記内容なども考慮し孤立しないようには努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在サービス終了者の該当がないが、サービス終了時にはまた何かあれば相談して下さい等の声をかけるようにしていくと共に、お手紙等も使用していき関係が切れないように努めていく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活より本人の意向や希望、相談事項を聞いている。内容に関しては申し送りノートを活用しスタッフ間で共有を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人、ご家族様に生活歴等をお伺いし職員間での共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録に1日の様子を介護記録に入力を行い、一人一人の心身の状態やできる内容の把握に努めている、また有する力を発揮できる内容はカンファレンスや申し送りノートも活用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリング(3ヶ月)・カンファレンス(毎月)を行い、内容をケアプランに反映。家族様よりも要望や改善事項等をお伺いし、その内容をもとにケアプランを作成しご家族様、入居者様に説明している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、業務日誌、申し送りノートに記入を行い情報共有に努めている。その後カンファレンスを行い介護計画見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズや課題に合わせた機能を取り入れADL低下防止に努め安心して生活していけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウイルスの影響にてスタッフのみとなっているが、近隣のスーパーへの買い物実施、施設近隣の散歩活動を行い地域住民と挨拶を行い交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に施設嘱託医か今までのかかりつけ医を選択して頂いている。現在入居中の方は全員が嘱託医となっている。入居者様の体調変化時等は連絡を行い適切な対応をして頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	何か体調変化や入居者様の相談等は24時間オンコール体制の訪問看護ステーションと契約している為、相談を行っている。必要に応じ先生手配も行って下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が安心して治療を受けれるように入院時には情報提供を実施。また入院時には往診医に連絡を行い入院先へ今までの治療経過等を連絡して頂くようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設での生活時は適切な対応が出来るようにご本人様の意向、ご家族様の意見を大事にし医療関係者と相談しながら、スタッフとも連携を行い支援に努めていきたい		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフには急変時の対応はフローチャートや訪問看護のオンコールに連絡するように周知をしている。初動対応の救急講習についてはコロナウイルスもあり、参加ができていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	Cユニットは避難訓練を未実施。今後暑さ等も落ち着いてきたらCユニット職員、入居者様と訓練実施予定		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の行動や言動や自尊心を傷つけないような対応を心掛けている。職員によっては大きな声で排泄の事を問いかける職員もいる為、カンファレンスにて注意を行うようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	トイレや入浴誘導においても必ずご本人様に声かけをしてから誘導を実施。拒否が強い場合には無理に誘導を行わないようにしている。レクリエーションは入居者様が参加したいと思えるように声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースに合わせて、どのように過ごしたいかを聞きながら支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の更衣等はご本人様に衣服を選んで頂くようにしている。自己決定ができない入居者様の場合はスタッフにて選択を行うが前日と被らないように配慮を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はあるが入居者様のリクエストメニューを導入している、また季節に応じたメニューにも変更を実施。お手伝いが可能な入居者様には調理補助や食器拭き等も手伝っていただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時の水分量・食事摂取量を確認し記録を実施。量だけに捕らわれずに対応必要に応じ食事形態や水分形態変更を行い対応している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケア・モーニングケアを実施している。可能な限り自己にて実施して頂くも必要に応じ介助を実施。訪問歯科診療についてはコロナウイルスが落ち着き次第導入予定(医療機関とは契約済み)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄ペースを理解すると共に、その人に合わせた声掛け、誘導を実施しトイレにて排泄できるようにアプローチしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に水分・牛乳を提供し自然排便が出来るように促している。1日の水分摂取量も把握し水分摂取量が少ない入居者様には水分摂取量日頃より促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回を目途に入浴を実施。拒否の強い方が数名お見えの為、その日の状況に応じて午前に入浴を実施する等している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や気分配慮しつつ気兼ねなく、休息できるような声掛けを行うようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬している薬がわかるように常に最新に薬情をフロアにファイリングしてある。服薬時は名前・日付を2人で確認を行い配薬、服薬している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事等でできる事を役割分担して参加して頂いている。現在コロナウイルスの影響にて外出レク等ができない為手作りおやつやお弁当(お寿司)等を注文したり気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎月外食レク・喫茶レク・施設買い物も設けているも現在コロナウイルスの為外出はいけませんが毎日の散歩活動は日課として行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金(お小遣い)は施設にてお預かりさせて頂いている。現在は何か購入希望等あれば職員が代行にて買い物を実施。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様了解のもと、本人と電話にてお話をいただいている。ご友人とのお手紙等は自宅に届いて、施設に持参する事あり、その際はご本人様にお渡しをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットにおいて色合いや壁紙を変える等をして自己のユニットが認識できる工夫をしている。またフロアには季節に応じた手作りカレンダー等を掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	見守りや介助が必要な方がお見えになる為、座席を決めている入居者様もいるが、自由に座って頂くようにはしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドに関しては法人にて介護ベッドを用意しているが家具については今まで使っていたものを持ち込んでいただいている。配置に関しても自由に決めていただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に合わせ、できる事を見つけ役割を持って生活できるように支援をしている。		